

(日本オーディオ協会 専業部会・ソフト普及委員会活動報告)

「オーディオ&ホームシアター展 TOKYO」

「音のサロン」を終えて

一般社団法人 日本オーディオ協会
渡邊 哲純

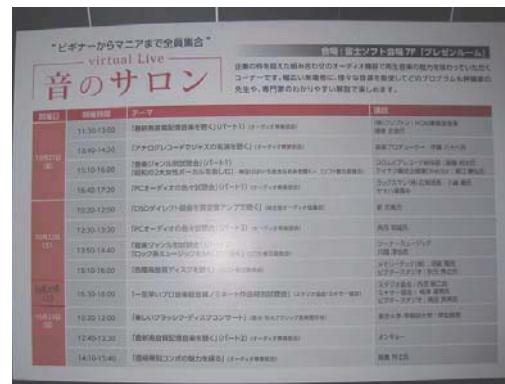
昨年 10 月 21 日から 23 日までの 3 日間、秋葉原において日本オーディオ協会主催の「オーディオ&ホームシアター展 TOKYO」が開催されました。

秋葉原での開催は本年で 3 回目となり、来場された皆様には本展示会のイメージが浸透してきたようで、昨年に引き続いてのリピーターのご来場が増えてきたようでした。

展示会の内容としても、オーディオ協会の主催の企画が年々充実してきており、「協会テーマコーナー」「協会セミナー」「工作教室」「体験生録会」、そして本年初めて企画された「音のサロン」と多岐に渡るテーマコーナーが用意されました。

ここでは JAS ジャーナル 9 月号に掲載させていただいた、今回初めて開催の協会イベント「音のサロン」についての開催結果レポートを中心にご報告させていただきます。

9 月号でも紹介いたしましたが、この「音のサロン」は「良質の音楽コンテンツを良質の再生環境で楽しんでいただく」ライフスタイルを普及させることを目指し、オーディオ専業部会 11 社とソフト普及委員会メンバー会社 5 社のご協力で、開催させていただくことが出来たものです。



「音のサロン」案内ボード

ご案内のように再生音楽コンテンツの高音質化への取り組みは近年目覚しいものがあり、CD の高音質化や新しいパッケージフォーマットや高音質配信など、様々な良質の再生音源が提供されています。しかしながら多くのリスナーの皆様は、残念ながらご家庭においてこれらのコンテンツのすばらしさを充分楽しんでいただける環境をお持ちでないため、せっかくの音楽の感動を満喫いただけていない状況にあります。この現状を変えていくには、関係するハード、ソフトの業界が協力して、「スピーカーを通して空気振動を肌で感じながら音楽の感動を味わう」機会を増やす活動を、継続して地道に展開する以外に改善されないのでないかと思われます。

昨今のユーザーが決して音楽離れや、より良い音で音楽を聞くことを望んでいないわけでは無いのです。屋外では、若い方を中心により良いヘッドフォンやイヤフォンを使って音楽を楽しもうとされていますが、残念ながらご家庭でスピーカーからの音楽感動に触れる機会が無くなっているのです。

そこで、今回の「音のサロン」のような活動を展開することが必要だと各委員の皆様の思いが一致し、この企画が全委員の総力を結集し実現しました。開催前日には各社の機器がずらりと会場に勢ぞろいしました。

専業部会メンバーである主要なオーディオメーカー11社の委員全員のご協力で、使用機器が開梱され会場内に揃ったところはなかなか壯観なものがあり、それを見ただけでもワクワクするものがありました。午前中に委員の皆さんのご協力で全機種のチェックが終了し、午後からはソフト普及委員会メンバーや講師の方々等によるリハーサルが行われ、明日の開催に向けての万全の準備がなされました。



「音のサロン」会場にならぶ使用機器

開催初日、朝方は平日で小雨模様の天候の上、「音のサロン」会場は富士ソフトアキバプラザの7階セミナールームが会場と言うこともありお客様の入りが心配されましたが、11時30分の1回目の講演「最新高音質配信音楽を聴くパート1」(講師 クリプトン樋泉 史彦氏)の開演時間が近づくと、会場前には開場を待つお客様の長い列が出来、開場時間を若干繰り上げて入場いただくような状況で、60席ほどの座席は満杯で立ち見のお客様がぎっしりといった大盛況のうちにプログラムはスタートし、樋泉氏による昨今の高音質配信環境の解説と、カメラータ・トウキヨウさんのソフトを中心とした96kHz、24bitのHQMQ高音質配信音楽の試聴に、途中席を立つ人もほとんどおられず皆様熱心に聴き入っておられました。(使用機器 Accuphase/B&W)



開場を待つ試聴者の列



司会役の筆者

次のプログラムは配信音楽と打って変わって「アナログレコードでジャズの名演を聴く」(講師 音楽プロデューサー伊藤 八十八氏)でした。伊藤氏がご自分で制作に携わったアナログレコードの試聴と普段聞くことのできないアメリカでの制作の裏話などを交えたお話に、レコードの音質の魅力を再認識した、皆さん大満足の1時間でした。

(使用機器 LUXMAN/Triode/Accuphase/DENON)



講師 伊藤八十八氏

続いて「昭和の2大女性ボーカルを楽しむ」(講師 コロムビア 衛藤 邦夫氏、ティチク 溝口 康弘氏)が行われました。

このプログラムは、通常のオーディオ機器の試聴では使われることがまれな「美空ひばり、ちあきなおみ」をテーマに、歌唱力豊かな2大女性ボーカルをソフト会社の専門家の解説で聴いていただきました。このパートも、試聴会ではあまりお見かけしない女性層などを含み満室状態でしたが、皆さん身を乗り出して楽しんでおられ、講演の終了後には講師の方に個別に質問されている熱心な女性客も見うけられました。(使用機器 maranz/LUXMAN/YAMAHA)

金曜日の最後のプログラム「PCオーディオの色々試聴会パート1」(講師 ラックスマン 小嶋 康氏 ヤマハエレクトロニクスマーケティング 安井 信二氏)でも、平日の午後にもかかわらず多数のお客様で立ち見状態。特に今回のPC関連のプログラム全般に共通して言えることですが、若い人のみでなく中高年の方が熱心に聴いておられる姿が目立ちました。

(使用機器 YAMAHA/Accuphase/LUXMAN/Fostex)



初日の4プログラムともいはれも立ち見のお客様が多くおられる状態で、来場いただいたお客様にはご不自由をおかけする事になってしまいましたが、途中退室される方も少なく皆様大変に熱心に講師方の話と試聴に聞き入られていて、主催者としては大変嬉しい一日でした。

22日（土）も朝方は雨模様の天気でしたが、前日同様「音のサロン」開場時間前には行列ができ多くの方が開場をお待ちになっておられました。

この日最初のプログラムは真空管オーディオ協議会様の主催による「DSD ダイレクト録音を真空管アンプで聴く」（講師 評論家 新 忠篤氏）でした。

新さんは長年ソフト制作のプロとしてご活躍されてこられましたが、今回はご自分で SP レコードの名盤などを最新の DSD 技術で記録し直したソフト使用した貴重な試聴会で、参加された皆さん、氏のもの静かな口調での解説を聞き漏らすまいと耳を澄ましておられました。

このプログラムはかねてより真空管オーディオ協議会様と日本オーディオ協会が、より多くの皆様にオーディオに興味を持っていただく活動を協力して推進する事を目指し協議を重ねてきた結果の、初めての具体的試みとして企画されたイベントで、そうした観点からも意義深いものでした。（使用機器 LUXMAN/Triode/Fostex）



真空管オーディオ協議会 朝倉氏



講師 新 忠篤氏

二番目のプログラムは初日に続いて「PC オーディオの色々パート 2」として評論家の角田 郁夫氏をお迎えしての講演でした。角田さんの分かり易く具体的な PC オーディオの使い方の解説は、これから PC オーディオに取り組んでみたいお客様にとっても大変参考になったものと思われます。（使用機器 marantz/YAMAHA/ECLIPSE）

続いての「ロック系ミュージックを SACD で聴く」（講師 ワーナーミュージック川端 淳也氏）は、夏にワーナーさんが発売されたイーグルスやドナルドフェイゲンなどを SACD ソフトでお聞きかせするプログラムでした。

日頃のオーディオ試聴会とは違ったロックジャンルの試聴が出来ると言う事で、若い方や外国人の方の入場もあり、当初の幅広い方をターゲットとしたイベントにしようとの思いには、ぴったりの企画でした。（使用機器 LUXMAN/DENON/DALI）

3時 10 分からは「各種高音質ディスクを聴く」で、講師にメモリーテック沼能 隆氏 ビクタースタジオ秋元 秀之氏を迎えて、昨今関心の高まっている CD フォーマットソフトの音質改善技術の解説と試聴がありました。

ご存知のようにパッケージソフトとしては SACD や Blu-ray などの新しいフォーマットのものも

ありますが、従来の CD も各社から高音質化技術を盛り込んだソフトが発売されており、その中の HQCD (High Quality CD) を中心にしたお話と試聴でしたが、満席のお客様は席を立つことも無く、皆さんのがんばりがうかがえました。(使用機器 Accuphase/marantz/B&W)

この日最後は「一足早いプロ音楽録音賞ノミネート作品特別試聴会」(講師 スタジオ協会 内沼 映二氏、ミキサー協会 梅津 達男氏、ビクタースタジオ 高田 英男氏)です。

ここでは 12 月 6 日の「音の日」に発表される「プロ音楽録音賞」のノミネート作品の試聴が行われ、多くの音楽ジャンルの楽曲を楽しむ事ができました。

(現在は発表されています。詳しくは日本オーディオ協会ホームページをご覧ください。)

<http://www.jas-audio.or.jp/event/rokuon/rokuon2011.php>



「一足早いプロ音楽録音賞ノミネート作品特別試聴会」風景

そしていよいよ最終日です。この日も早朝に松本のオーディオ専門店様(朝 6 時に松本を出発)がわざわざバスを仕立ててお客様をお連れになるなど大変な賑わいでした。

10 時半から「楽しいクラシック・ディスクコンサート」がスタートしました。このプログラムは東京大学と早稲田大学のクラシック音楽愛好会の学生諸君が講師を務めて下さいました。

事前にソフト普及委員会メンバーのコロムビア、ワーナーミュージック、キングインターナショナルの各社のからご提供いただいたソフトを学生さんに渡しておき、それらソフトの解説のための研究を自主的にして頂いた上で試聴会で、純粋素朴な学生諸君のお話には、いまどきの大学生がこれほどにまじめなのかと我が学生時代を思いかえし、いまさらながらわが身を反省するひと時でした。(使用機器 DENON/LUXMAN/TANNOY)

昼からは初日に引き続き「最新高音質配信音楽を聞くパート 2」(講師 オンキヨーエンタテインメントテクノロジー 田中 幸成氏 オクタヴィア・レコード 小野 浩氏)が e-オンキヨーさんより配信されているオクタヴィアさんが制作された楽曲を中心とした解説と試聴が行われ、ご来場されたお客様は、配信音楽がここまで高音質であることに感心しておられました。

(使用機器 ONKYO/LUXMAN/KRIPTON)

3日間の最後のプログラムは、各方面で執筆活動や講演でご活躍の麻倉 恵士氏に担当いただいた「価格帯別コンポの魅力を探る」でした。

このプログラムは11社のハードメーカーの機器を縦横に組合せ、価格帯を30万、50万、70万、100万、200万と分けて組合せを変えて試聴いただく企画です。

麻倉さんの絶妙なトークと、普段なかなか聞くことの出来ない複数メーカー機器の組合せでの価格帯別試聴に、開場は一睡の余地もないお客様で溢れかえり、会場に入りきれないお客様も多数出てご迷惑おかけしてしまいましたが、熱心なオーディオファンは苦情も言わずに、扉の外からも氏のお話を聞いておられました。

(使用機器 CEC/TRIOD/DALI/ONKYO/Fostex/YAMAHA/marantz/ECLIPSE/LUXMAN/Accuphase/KRIPTON)



講師 麻倉恵士氏

こうして3日間の「音のサロン」は、大盛況の内に無事終了することができました。

今回の企画は、繰り返しになりますが「良質の再生音楽を良質の再生環境で楽しんでいただく」ライフスタイルの普及を目指し、ご家庭においてはスピーカーを使ってゆったりと音楽を聴いていただき、その感動に触れていただく幅広いユーザーを増やそうとの目的で開催いたしましたが、会期中会場に1000名を超えるお客様に来場いただき、こうした目的は充分に果たせたものと確信しております。

ご来場いただきましたオーディオ協会会員の皆様、JASジャーナル読者の皆様、ありがとうございました。そして運営に当たってご協力いただいたハードメーカー、ソフトメーカーの皆様には、その献身的なご協力に心より感謝いたします。

今回の「音のサロン」のような、会員各企業の総力を結集し横に繋いだ横断的試聴体験活動は、オーディオ協会の果たすべき役割の一つであり、多くのお客様にオーディオの楽しさを伝えることが、業界の裾野を広げる為の原点の活動であることが確認できたように思います。

そしてその広がったベースを生かし、各企業は個々の製品の良さをアピールしていただくことにより、より多くのユーザー開発につながるのではないかでしょうか。

日本オーディオ協会では、今後もこうした協会ならではの啓発活動を推進してまいりますので、会員各位の引き続きのお力添えをお願いする次第です。